

取扱説明書

品名
SLNB

2012年10月4日

株式会社いけうち

目次

はじめに	P. 1
安全にご使用いただくために	P. 1
1. 注意事項	P. 2
2. スプレーノズルの構成	P. 3
3. メンテナンス	P. 4
4. 保守と点検	P. 5
5. 故障・異常の原因と対策	P. 5
6. 廃棄について	P. 6

はじめに

このたびは、“霧のいけうち”のCERJET®（セルジェット）スプレーノズルをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

この取扱説明書は、CERJET®（セルジェット）スプレーノズルの基本的な取り扱い方や保守及び注意事項などについて解説したものです。

なお、品質、性能の向上など、よりよい製品をご提供するために製品と本書の内容が一部異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

また、お読みになった後は、大切に保管してください。

安全にご使用いただくために

使用される前に必ずこの取扱説明書をよくお読みになり、正しい操作でスプレーノズルの性能を十分に発揮させてください。誤った取り扱いが原因で起こされた事故に関して、当社は責任を負いかねます。十分な理解のもと、スプレーノズルの使用をお願いします。



注意

取り付け時には手袋等の保護具を着用してください。

ネジ部や角部でけがをする可能性があります。



注意

取り付けは確実に行ってください。

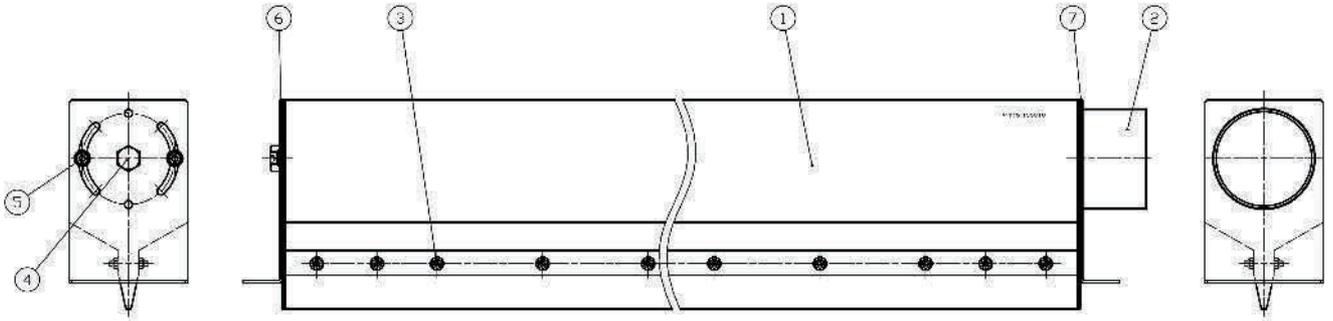
ネジの締め忘れや、ホースバンドの取り付けが不完全な場合、使用中に外れ、重大な事故につながる可能性があります。

1. 注意事項

- (1) ノズルは精密な製品です。特にスリット部（開口部）は性能に関わる重要な部分ですので注意して取り扱ってください。
- (2) ネジ部や角部は、鋭利になっていることがあります。手袋等の保護具を着用し、十分に注意をして取り扱ってください。
- (3) 当ノズルの運転は、規定圧力内で行ってください。
規定圧力条件が無い場合は、当社発行の性能線図内にて使用してください。
- (4) 配管系統について
 - ・ 配管、バルブについてはオリフィスにならない様な大きさのものを使用してください。
 - ・ 配管はなるべく新しいものを使用してください。古い配管や、中にゴミや錆がある場合は目詰まりの原因となります。また、錆等の発生している配管の使用は絶対に避けてください。
 - ・ 新しい配管といえども、組み付け時に内部にシールテープ等が入っている場合があります。ノズル組み付け前には充分配管のフラッシングを行い、内部をきれいにしてから使用してください。
 - ・ 正しい圧力が供給されているかどうか確認のため、ノズルの手前に圧力計を取り付けてください。また、万一のためバルブを取り付けることをおすすめいたします。
 - ・ ノズルの目詰まりが発生した場合、ノズル性能に異常をきたします。フィルター等を用いて異物がノズルに詰まらない様に注意してください。

2. ノズルの構成

(1) 組付図及び部品と材質



No.	部品名	材質	数量※3	備考	No.	部品名	材質	数量※3	備考
1	BODY	S304	1		5	CAP SCREW(M5)	S304	2	
2	INLET PIPE	S304	1		6	BRACKET(t=2)	S304	1	
3	ADJUSTING BOLT	S304	14		7	BRACKET(t=2)	S304	1	
4	BOLT(M10)	S304	1						

註) (1) 型番により形状及び材質が、本図及び上表と異なる場合があります。

(2) 弊社では「ステンレス鋼」を「S」と略記しています。

【例】 S304→ステンレス鋼304

(3) 数量は長さ 1000mm の場合のものを参考にしてあります。

3. メンテナンス（前頁の部品番号参照）

スリット部が目詰まりするとスプレーパターンに割れ等が生じ、良好な噴霧が得られません。もしも、異物が詰まった場合は、スリット幅と同じか、それ以下のすきまゲージで異物の除去を試みてください。

註) スリット部が傷つかないように、すきまゲージは曲がり、折れのない物を使用してください。また、すきまゲージを通す際はゆっくりと注意して行ってください。

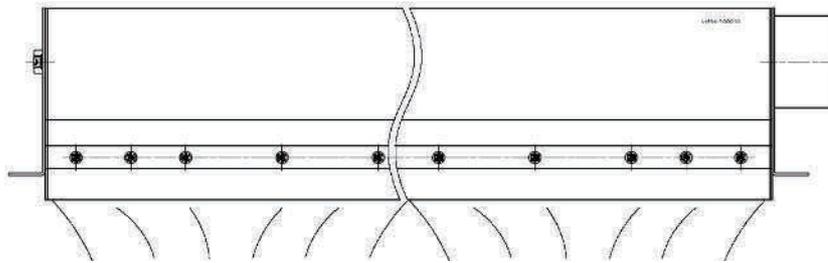
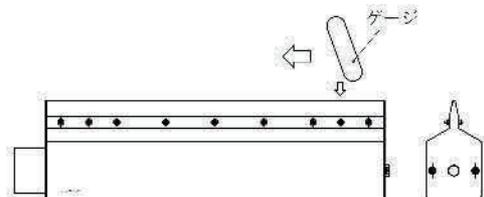


図1. 目詰まり時の現象

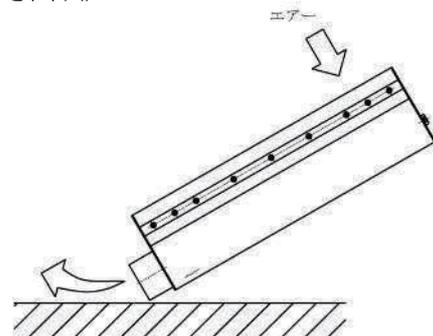
このブロー用スリットノズル（SLNB）は分解することができませんので、以下の要領で行ってください。

(1) ノズルからホース類を取り外す。

(2) スリット部を上側にして置き、すきまゲージ等でつまっている異物を中に落とす。



(3) 異物が出やすいように、インレットパイプ②を下向きにして立て、エアガンでスリット部から内部へエアを噴射してはき出す。



4. 保守と点検

メンテナンス基準

区 分	項 目	内 容
日常点検	噴霧確認	正常圧力であること。
	圧力計、流量計の指示目盛りのチェック	噴霧した状態で圧力及び空気流量の目盛りが、セット値と同じであることを確認する。
定期点検	噴霧確認	スプレーパターンに割れがないか触れて確認する。
	ノズル外観チェック	スリット部の外観状況、異物付着状況を確認する。

5. 故障・異常の原因と対策

症 状	原 因	対 策	備考
噴霧しない	制御関係	<ul style="list-style-type: none"> ・制御器のスイッチの入れ忘れ ・バルブの開け忘れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・制御器スイッチを入れる。 ・バルブを開く。
	ノズル本体	<ul style="list-style-type: none"> ・ノズルまたは、配管中の目詰まり ・ノズルまたは、配管破損による目詰まり ・スリット部の目詰まり 	<ul style="list-style-type: none"> ・目詰まり部の点検と清掃。 ・破損部品の交換または、修理。 ・清掃。
異常噴霧	噴霧パターンが悪い	<ul style="list-style-type: none"> ・スリット部の目詰まり ・スリット部の打痕傷 ・異物の付着 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃。 ・部品の交換。 ・異物付着部の清掃・除去。

6. 廃棄について

各地方自治体や社内の処分方法に基づいて処分するか、専門業者へ依頼ください。